

平成二十二年 府中市郷土の森博物館

梅まつりの俳句優秀作品

市村 究一郎 選

特選

白梅の白き静寂しじまの中なかににるるて

「評」 敬い慕う心にも似た白梅への愛があふれる。

府中市

塩澤 登美子

月影枝垂その梅の木に会いに来し

「評」 憧れと希望を抱かせる梅に会うときめき。

川崎市

土屋 惣子

梅が香かや多摩の川風そばふ園

「評」 「そばふ」は戯れる。風が遊んでいる優雅さ。

府中市

影山 洋子

遠き声聞ゆ真白の梅の下

「評」 千の風のような、時には師友の薫り高い声が。

府中市

志田 礼子

梅の花啄ついばむその目ひかりけり

「評」 蜜を吸っているのか、夢中の目に梅が満開。

府中市

久保田 昭子

佳作

むめ一輪空に消えゆく白さかな

八王子市

わたなべ 華風

障害の子らに梅の香隔てなし

大和市

長松谷 伸一

残像は玻璃戸はりどに流れ枝垂梅

相模原市

緑川 美世子

梅まつり亡き夫母と歩みたり

多摩市

榎本 律子

父と母寄りそひ歩む梅の昼

府中市

松本 美緒

村野四郎も俳人仲間梅開く

調布市

鷯沢 希伊子

夕月や降灰こうかいに置く梅の影

多摩市

石田 幸代

ふるさとは宮城と知るや臥龍梅

府中市

河内 和子

地に触るる枝垂れの梅の紅の影

渋谷区

佐藤 みちゑ

人交ひし郷土の森の梅日和

多摩市

山崎 美弥子

市村 究一郎

昭和二年東京生れ。水原秋櫻子に師事。「馬酔木」編集同人を経て、「カリヨン」創刊主宰。俳人協会評議員